

■「新型コロナウイルス感染症に対応した避難所開設手引き」の広報と活用について

◆18番（小池智明 議員） 私は、新型コロナウイルス感染症に対応した避難所開設手引きの広報と活用について質問いたします。

コロナ禍が拡大する中、市では新型コロナウイルス感染症に対応した避難所開設手引きを作成し、6月4日には小長井市長が記者会見で内容を発表しました。新手引きでは、適切な避難行動を取るポイントとして以下の3点を挙げています。安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。避難先は、小中学校など公共施設だけでなく、安全な親戚・知人宅も考えておきましょう。マスク、消毒液、体温計を自ら携行しましょう。小中高校の体育館等の従来の避難場所は3密の最たる場所になるので、他の安全な場所、親戚ですとか知人宅等に優先して避難する。つまり、従来の指定避難所を中心とする集中避難から、3密を避ける分散避難に大きく方向転換したものだと考えます。

私が住む駿河台3丁目の指定避難所は吉原高校です。この吉原高校を指定避難所とする7つの町内会——今泉、吉原、広見地区にまたがりますが——で構成する吉原高校避難所運営委員会でも、先日ようやく開催できた委員会の正副本部長会議で、こうした分散避難に基づく避難の基本的な考え方を以下のように整理、確認しました。第1に、災害時でも避難しなくて済むよう、これまで以上に自宅の耐震化、火災発生防止等に努めましょう。これは自助、組合、町内等での共助の再確認です。どうしても避難しなければならない場合の避難先優先順位は、1、親戚・友人宅、2、軒先でのテント、車中、3、町内公会堂周辺でのテントや車中、4、吉原高校グラウンドでのテントや車中、5、吉原高校の教室、6、吉原高校の体育館。一方、新手引きでは、具体的な行動の手引を1から3まで、1、災害時の行動として、①地震発生直後の行動、②水害時の行動、2、避難所開設の手順、①事前受付を建物出入口の前（屋外）に設置、②事前受付開始・発熱等症状の有無を確認、③、④入所時の流れ、これは発熱等の症状がある人、ない人に分けて、3、避難所の衛生環境で注意すべきことと災害時の時系列に沿い、項目別に示しています。この新手引きの考え方がより早く、より多くの市民に受け入れられ、より効果的に活用されるためにはとの観点から、今回、以下の質問をいたします。

大きい1つ目が災害時の行動についてです。

1、避難先として親戚・知人宅を優先し、いつ、どこへ、どのように避難するかを具体的に決めて記入する（仮称）我が家の災害時避難チェックシートの全世帯作成を強力に促進すべきと考えますが、いかがでしょうか。

2、車中泊に関する指針、留意点について、より詳細に示すべきではないでしょうか。

3、3密回避の観点から、避難所内外でテントを利用した避難生活に備える自治体が増加しています。市の備蓄備品としてテント確保を進めるべきと考えますがいかがでしょうか。また、自主防災会等がテントを購入する際の補助制度をより明確にすべきと考えますが、いかがでしょうか。

大きな2つ目、小中学校での避難所開設の手順、運営について。

1、避難所の事前受付では、市地区班担当者、学校教職員等の施設管理者、避難所運営委員会メンバーである地元住民が受付を担当することになりますが、感染防止のための防護備品の準備、備蓄状況はいかがでしょうか。

2、3密回避の観点から、これまで避難時の利用優先順位が低かった普通教室等のエリアも利用せざるを得ないことが考えられます。これらエリアの扱いに関する市立小中学校、県立高校との協定の調整はどう進める予定でしょうか。

3、避難所開設後には、衛生環境維持の観点から、市の保健師による巡回指導が重要と考えますが、その準備はいかがでしょうか。

大きな3つ目、新手引きの効果的な広報と訓練の実施について伺います。

1、会合等の開催がままならない中、各種防災団体、これは自主防災会ですとか避難所運営委員会などです。あるいは市民に対し、新手引きの考え方、内容をできる限り早く、効果的に伝えることが重要と考えます。また、各地区では、新手引きを踏まえた検討や訓練が必要と考えますが、どのように進めていく考えでしょうか。

2、中でも、感染防止に配慮しながら避難所の最前線で対応する市地区班担当者、学校教職員等の施設管理者、地元の避難所運営委員会メンバー等への研修をどう行っていく考えでしょうか。

3、3密、感染を防ぐための事前受付、避難スペースのレイアウト、感染防護具の適切な利用方法等、避難所開設に関し、モデルとなる動画を作成し、それを市のウェブサイトに掲載、活用してはいかがでしょうか。

以上、1回目の質問といたします。

○議長（一条義浩 議員） 市長。

〔市長 小長井義正君 登壇〕

◎市長（小長井義正 君） 小池智明議員の御質問にお答えいたします。

初めに、新型コロナウイルス感染症に対応した避難所開設手引きの広報と活用についてのうち、災害時の行動についてのうちの避難先を具体的に決めて記入する（仮称）我が家の災害時避難チェックシートの全世帯作成を強力に促進すべきと考えるがいかにかについてであります。新型コロナウイルス感染症に対応した避難所開設手引きでは、コロナ禍において災害が発生した場合であっても適切な避難行動を取っていただけるよう、地震発生直後や水害時の行動をイメージし、いつ、どこへ、どのように避難するか具体的な避難方法を決めておくよう呼びかけており、各世帯で事前に備えることが重要であると考えております。地震対策につきましては、命を守る、けがをしないことに加えて、被災後も自宅で生活できる備えをすることが重要であることから、新たに家庭内対策チェックシートを作成し、全ての自主防災会に送付いたしました。このチェックシートは「広報ふじ」8月5日号で紹介するとともに、市のウェブサイトからダウンロードができることも周知し、家庭内で活用していただきたいと考えております。土砂災害に対しましては、事前に各家庭で避難先、避難経路を決めておくよう、6月の土砂災害防止月間に合わせて土砂災害警戒区域内の全ての世帯に、以前から活用しております大雨時のわが家の行動チェックシートを配布いたしました。水害に対しましては、最大規模の降雨を想定したハザードマップを作成し、本年度から配布することを予定しており、浸水区域内に居住する皆様が浸水想定を理解し、実際の避難行動を考え記入する我が家のマイタイムラインを作成していただきたいと考えております。また、災害時の

行動に対する理解を深めていただくため、現在、地震対策、風水害対策、自主防災活動に関する動画を作成し、市公式ユーチューブに掲載する準備を進めております。本市といたしましては、これらの取組を通じて、災害発生時の適切な避難行動の考え方を周知してまいります。

次に、車中泊に関する指針、留意点をより詳細に示すべきではないかについてであります。避難所の3つの密を回避する方法の一つとして、避難所に行かず自宅の軒先などで車中泊による避難をする場合も想定されます。東日本大震災や平成28年熊本地震では、避難所の施設に避難される方のほか車中泊避難をされた方もおり、その際にはエコノミークラス症候群などによる二次的な被害も報告されております。このため、車中泊避難をされる方がさらなる被害を受けることのないように、車中泊に関する注意点などについて市のウェブサイト等で周知してまいります。

次に、市の備蓄備品としてテント確保を進めるべきと考えるがいかがか、また、自主防災会等がテントを購入する際の補助制度をより明確にすべきと考えるがいかがかについてであります。災害時の避難所等におけるテントの利用は、避難スペースの分散、プライバシーの確保などの利点がある一方で、大雨など気象状況に大きな影響を受けやすく、夏場には熱中症リスクなどの課題があります。本市では、避難所における3つの密を回避するため、小中学校等における避難スペースの拡充や発熱などの症状がある方とそうでない方の分散避難の対策を進めているところであります。こうしたことから、本市といたしましては、現在、テントを備蓄することは考えておりません。一方、自主防災会が避難施設として想定している公会堂等の公共的施設など、地域の自主的な避難生活の場での利用も想定されるため、町内会、区の実情に応じて備蓄するテントにつきましては、避難生活用テントとして器材購入費補助金の対象にしております。

次に、小中高校での避難所開設手順、運営についてのうち、避難所受付担当者の感染防止のための備品の準備、備蓄状況はいかがかについてであります。以前からサージカルマスク、消毒液、簡易防護服、ニトリル手袋等を備蓄しておりましたが、避難所における新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、今後、サージカルマスク、消毒液の備蓄数を増やすとともに、非接触型体温計、フェースシールド、ペーパータオル等の備蓄を進めてまいります。

次に、避難時の利用優先順位が低かった普通教室等のエリアも利用せざるを得ないと考えられることから、これらのエリアの扱いに関する市立小中学校、県立高校との協定の調整はどう進めるかについてであります。小中学校につきましては、新型コロナウイルス感染症に罹患した方と接触のあった方や発熱などの症状のある方が避難する感染予防エリアの設定や、利用優先順位の低かった特別教室、普通教室について避難者数等の状況に応じて柔軟に利用できるよう依頼し、協力が得られることを確認しております。県立高校につきましては、以前から特別教室、普通教室が利用できるよう要請しておりましたが、現在、県が策定を進めている新型コロナウイルス感染症を踏まえた避難所ガイドラインの意見照会において、特別教室、普通教室が利用できるよう意見を提出し、県において県立高校へ通知する準備を進めていると伺っております。

次に、避難所の衛生環境維持のため、市の保健師による巡回指導の準備はいかがかについてであります。避難者の心身の健康を保つためには、避難所の衛生環境を良好な状態に維持することが重要であります。本市においては、災害時健康支援活動マニュアルに基づき、避難所の衛生環境について把握し、避

難所運営者に環境整備の助言及び指導を行うこととしております。また、手洗い、マスクの着用、口腔ケア、部屋の換気、床やトイレの清掃などについて記載した掲示物、リーフレットを準備し、避難者の健康管理や避難所の衛生環境整備のために必要な啓発や教育を行ってまいります。全ての保健師が避難所において的確な巡回指導を行えるようにするため、年2回、災害時健康支援研修会を開催し、保健師の資質向上を図っております。本年6月の研修会は、新型コロナウイルス感染症に対応した避難所開設手引きについて、11月は実際の避難所を想定して巡回指導のシミュレーションを行う予定であります。また、全避難所が開設された場合を想定し、他県に保健師の派遣を要請する受援計画を立てるなど、保健師の巡回指導体制を整えております。これまで避難所派遣の保健師が各避難所の運営の準備や会議に携わる機会が少なかったと感じておりますので、今後は、各避難所を運営する市民の皆様と避難所における衛生管理と環境整備などについて情報共有するなど、避難所開設前からの運営支援に関わってまいりたいと考えております。

次に、新手引きの効果的な広報と訓練の実施についてのうち、新手引きの考え方、内容を市民に対し効果的に伝え、その内容を踏まえた検討、訓練が必要と考えるが、どのように進めていくかについてであります。新型コロナウイルス感染症に対応した避難所開設手引きにつきましては、今月4日の市長定例記者会見での公表と同時に、市ウェブサイトへ掲載したほか、富士市地域防災指導員や市内の全ての自主防災会長、避難所運営委員会の代表者へ郵送いたしました。その後、複数の避難所運営委員会の方からお問合せをいただき、本年度の取組において手引きの内容を反映した新型コロナウイルスへの対応を検討したいとお話をいただいておりますので、訓練や研修会の内容について個別に対応してまいります。また、その他の避難所運営マニュアルが完成していない地区につきましては、各地区まちづくり協議会で開催している地区防災会議の議題として取り上げていただくようお願いするなど、様々な機会を捉えて手引きの内容をお伝えし、周知、啓発に努めてまいります。

次に、感染防止に配慮しながら、避難所の最前線に対応する市地区班担当者、施設管理者、避難所運営委員会メンバー等への研修をどう行っていく考えかについてであります。避難所の運営は避難者が主体となっていくことを基本としておりますが、新型コロナウイルス感染症に配慮しながら運営するためには、防災地区班の避難所派遣職員、施設管理者、避難所運営委員会などのサポート体制や感染防止の知識が重要であり、研修の機会が必要であると考えております。このため、防災地区班の避難所派遣職員を対象に今月29日に研修会を開催し、手引の内容を説明するとともに感染症予防策等を学ぶ機会といたします。また、9月1日の総合防災訓練において、新型コロナウイルス対策の事前受付場所の設定や各避難所の感染予防エリアについて、施設管理者とともに現地の確認を行う予定であります。このほか学校防災教育連絡会議においては、学校が避難所となる場合について協議する時間を設け、手引の内容についての理解を深めていただくことができるよう努めてまいります。

次に、3密、感染を防ぐための事前受付、避難スペースのレイアウト等、避難所開設に関し動画を作成し、市ウェブサイトに掲載、活用してはいかかについてであります。現状では、新型コロナウイルス感染症の予防対策として、3つの密を避け地域での防災活動を行っていただく必要があります。このため議員御提案の動画による手引きの啓発は有効な手段であり、ケーブルテレビの「ふじ広報室」で放送する準備を進めているところであります。「ふじ広

報室」は、ケーブルテレビをはじめ、市公式ユーチューブへの映像配信や市ウェブサイトにも掲載するため、スマートフォン等で映像を視聴することができ、多くの方に活用していただくことができると考えております。

以上であります。

○議長（一条義浩 議員） 18番小池議員。

◆18番（小池智明 議員） 最初に、今回の質問に至った背景を述べさせていただきますけれども、私は、市内に53ある指定避難所のうちの一つであります吉原高校避難所運営委員会の本部長になって今年で9年目になります。これは7つの町内会から選出される委員で構成しているんですけれども、約80名います。そのうちの3分の2は毎年1年交代で入れ替わってしまうものですから、毎年5月から勉強会を始めて自分の役割や動きを理解していただき、12月の防災訓練のときに避難所開設運営訓練を行って、現場でさらに再確認して体で覚えようということをやっています。その繰り返しを毎年やっています。しかし、今年はこのコロナの影響でスタートが遅れ、緊急事態宣言解除後にやっと各町内会の代表者7名による会合を開催することができました。しかし、そこで出た皆さんからの意見は、今のままではコロナが怖くて避難所に避難してくる人がいないのじゃないか、さらには、俺たち避難所を立ち上げる委員だっとうつるのが怖くて行きたくないよ、現場では全く動けない、そういう状況です。

一方、そういう中で市が今回作成した新しい手引きは、従来の指定避難所を中心とする集中避難から3密を避ける分散避難に大きく方向転換したものです。この方向転換はまさに正しいというか、今になって考えれば、本来、避難は分散避難が基本だったんだと改めて思います。というのは、指定避難所は体育館が中心ですけれども、夏は暑い、冬は寒い、コロナ以前からノロウイルスですとかインフルエンザなどの感染症の危険性が高いということは言われていたわけです。第1は、避難しなくてもいいように自宅の耐震化ですとか家具の固定、第2に、避難するのなら分散避難、これが改めて基本だということに今回気づかされました。しかし、コロナの影響で、毎年4月に市の防災危機管理課が自主防災会長を対象に研修会をやっていますけれども、これも開催できなければ、先ほど市長が答弁で言いましたけれども、この新手引きについても説明会ができていないわけです。郵送で自主防の会長に先週送られただけです。今朝も、長崎県では50年に1度の大雨が降り、千葉県では震度5弱の地震がありました。富士市でも同じ、いや、それ以上の災害がいつあってもおかしくない状況です。いかにこの新手引きの考え方を市民に伝え、理解いただき、訓練、そして実践に生かしてもらうか。コロナを正しく恐れて、いかに新手引きを現場で生かせるようにするか。つくったはいいけれども、いかに生かしてもらうか、これがこれからの行政の役割だと私は思っています。そういう観点で今回質問いたします。

最初の災害時の行動についてなんですけれども、今言った分散避難の基本的な考え方ですが、議長の許可を得て配った資料の裏面の右下を御覧いただけますか。体育館のレイアウト例があります。これは距離を空けて入るということで、ざっと計算すると、この体育館はすごく大きいんです。40メートル掛ける30メートルくらいのフロアの大きさなんです。多分、こんな大きい体育館は実際ないと思うんですけれども、かなり大きめなんですけれども、ここには勘定をすると80人入っているんです。しかし、県の第4次地震被害想定で富士市の

避難者数は2万6666人と出ています。これを53か所で割ると、一番多いとき、1週間ぐらいたったとき、平均して1か所に500人を避難所へと収容する。もちろん避難所に行かない避難者もいますけれども、避難所では大体500人いるだろうという計算になります。ちなみに吉原高校の避難所では、7つの町内会では古い住宅が多くて密集しているものですから、恐らく火事も起こりやすい。そういう中で、市で想定した今年の避難者数は、吉原高校は811人なんです。吉原高校は体育館が2つあります。従来の詰め込み式でも、我々が絵を描いてこういうふうに配置しようとしたのは2つの体育館で250人なんです。完全にキャパシティーが足りない。さらに、それを間隔を取ってやるとなると完全に足りません。ですから、後から言ういろんな形の分散避難が必要だと。そういう中で、大前提として、まずそれぞれの家庭でいきなり避難所に行ってはだめだよ、避難所に行ったら、今の時期だったら感染症が怖いよ、それ以外にも生活環境が悪いし、なるべく安全で快適に過ごせるところへ行こう、その第1が、私は親戚だとか知人の家だと思うんです。

市長の答弁では、家庭内対策チェックシートを送付したり、ダウンロードできると。資料の裏の青い点線で囲った左側の2ページがダウンロードしたやつです。確かにできますけれども、これはあくまでも事前対策です。家具固定だとか備蓄品はこれだけ用意しましょうと。どこへ避難しよう、どこへ行こうというのは出ていないわけです。さっき土砂災害警戒区域だとかハザードマップで水害が危ない地域はというのはありましたけれども、上に丸で囲ってありますけれども、水害時の危険がある家は立ち退き避難でどこの家へ行くんだというのを決めましょうと言っています。これをもっと全市的に全てのお宅で、家族で考えて、避難するんだったら、あのおじさんの家に行こうといっても、その家が安全かどうか分からないですよ。だから、その家へ連絡して、おまえたちが来るんだったら、俺たちは大丈夫だよ、オーケーだよという確認を取るところまで促していかないと、いざというときにやっぱり避難できないわけです。

ですから、改めて質問しますけれども、そういう意味の一部の危ない家だけじゃなくて全ての家庭に対して、改めてどこへ逃げるか、どういう家に行くか、その家まで確認を取るといようなシートをつくって、各家庭で検討して、冷蔵庫へでも貼っておくということを進めたらどうかと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（一条義浩 議員） 総務部長。

◎総務部長（川島健悟 君） ただいま議員から御紹介いただきました資料の水害時の行動、手引きの3ページにある赤い点線で囲まれている部分は、非常に重要だと認識しております。これは避難所開設手引きの一部分でありますけれども、例えば、ここは家庭で使える非常に重要な部分としてありますので、この部分をどのような形で抜粋して使っていくのか、どのような活用の仕方が効果的なのかというのは、また、防災に関わっていらっしゃる関係者の方の意見も聞きながら、対応したいと考えております。

以上です。

○議長（一条義浩 議員） 18番小池議員。

◆18番（小池智明 議員） この話はまた後でもう1回したいと思います。

次に、車中泊の件は、確かにエコノミークラス症候群とか、気をつけないと二次的な被害に直結しますので、それは市民の皆さんに上手に伝えていただきたいと思います。

3番目のテントの件ですけれども、いい面もあるけれども、大雨なんかのときは大変だよと言いますけれども、資料の写真を見ていただけますか。上がこれまでの避難所ですけれども、下がテントを利用したものです。右側が熊本地震のときのテント村ですけれども、左側は去年の千曲川が氾濫したとき、私はたまたま個人的に行ったものですから写真を撮ったんですけれども、数が少なければ、こうやって体育館の中へ張っても飛沫防止ですとかプライバシーの確保ということで十分使えるわけです。下の写真は、私が今回テントを買ったんですけれども、自分の家の前でこうやって、すぐにこれは設置できます。本当に簡単だと思って、値段もテントが8000円、中へ妻と2人で入るとして、エアマットも買ったんですけれども、全部で1万5000円くらいで購入できました。いろんな使い方ができるだろうと思いますので、これは自主防でも買いたいと思うんです。さっきの市長の答弁では、今、補助対象としていると言いましたけれども、書いてあるのは大型のテントなんです。運動会の本部にあるような、それも周りに横幕がなきゃだめだとかというのもあります。このタイプの小さなテントでも小回りが利いて利用できるものがあるものですから、その辺を明確にしていきたいと、これは要望します。

また、今朝の新聞で出ていたんですけれども、三島市でワンタッチパーティションを体育館の中での飛沫感染防止ということで、富士市では段ボールついでを用意していますけれども、テントの屋根がないようなものを三島市で1200近く購入する補正予算が、昨日、可決された。5000万円で買うよということ。ぜひそんなことも参考にさせていただいて、私はテントというのはいろんな意味で使い道があると思うので、市での購入、また、自主防等での購入に対する支援をお願いできればと思います。

次に行きます。2番目の小中学校の件ですけれども、防護備品の準備、備蓄はいろいろ進めているということで、これは補正予算でも上がってきて、できる限り進めていただきたいと思います。また、学校との協定ですけれども、小学校は市長が設置者で管理者の大本ですから、それは教育長もいらっしゃるし、比較的スムーズにいくと思います。ただ、私が住んでいる地区の吉原高校は、やっぱりなかなか話をしてもすぐには返事が来ません。さっきの答弁だと、県のガイドラインで県立高校の普通教室も使えるように準備を進めているということでしたか、これは市が要望したからとかじゃなくて、県のほうで独自にそれは進めているということでしょうか。ちょっと確認させてください。

○議長（一条義浩 議員） 総務部長。

◎総務部長（川島健悟 君） 県への意見という形で進めさせていただきましたけれども、本市だけではなく、やはり県内のほかの自治体も県立高校の普通教室、特別教室の活用についてはかなり要望が出ていたというふうに伺っております。そういった中で、もちろん県の危機管理担当部局もそういう観点では念頭にあったかと思いますが、さらに各市町からの要望という形で一層後押しさせていただいたと考えております。

○議長（一条義浩 議員） 18番小池議員。

◆18番（小池智明 議員） 9月の総合防災訓練は、市からの自主防への通知にもあるように、避難所開設訓練はやっぱり3密を避けようということであるべく中止してくれという話があります。だから、多分どこもやるところはないと思うんですけれども、第2波、第3波が秋に来るとということが懸念されるわけですけれども、私は、少なくともその頃の前までには、1度、学校の中で普通教室はこういう配置になっているのか、これだったらこういう形で使わせてもらおうという計画をこちら側もつくる必要があると思うんです。ですから、秋までには県のほうでも明確にさせていただくように、改めて市からも要望をしていただきたいと思います。

それと、保健師の巡回指導の件ですけれども、これは私は避難所開設後ということで質問しましたけれども、市長の答弁では、避難所開設前、いろんな準備段階、あるいは計画段階から、例えば、避難所運営委員会にも保健師に来てもらったり、あるいは訓練のときも来てもらって助言なり指導してもらえというふうに捉えました。保健部長、それでいいですか。

○議長（一条義浩 議員） 保健部長。

◎保健部長（伊東禎浩 君） この件につきましては、今、議員からお話がありましたとおり、救護所が片づいてから避難所を順次回る、災害のときはそういう形になりますので、保健師が回るときには避難所はもう動いているという形になりますので、準備段階から地域の方に理解していただいて開設していただくということで、今回、そういう形で答弁させていただいております。

以上です。

○議長（一条義浩 議員） 18番小池議員。

◆18番（小池智明 議員） 今の状況だと、よく分からないから、新型コロナウイルスを正しく恐れるということができないわけです。そういう中では、やっぱり保健師などのアドバイス、指導というのは非常に心強いと思います。ぜひ準備段階からよろしく願います。

次に、大きい3番目に行きますけれども、避難所運営委員会を立ち上げているところには個別対応する、それ以外のところは地区の防災会議で伝達していくということなんですけれども、それはそれでやっていただきたいんですけれども、私の住んでいる町内の自主防の会長は、今年、入れ替わりました。やっぱりそういう方が多いと思うんです。資料が送られてきても、これまでのマニュアルと新しい手引きを読み込むことすらなかなかできなくて、理解ができないというのが実情です。夏の防災訓練も今どうやろうかということで検討はしているんですけれども、これは提案なんですけれども、やっぱり私は新型コロナウイルスに対してこういう対応をするんだという訓練ができればいいけれども、集まること自体ができないので、今回はそれはちょっと我慢しよう。だけれども、最初に言ったように、訓練ができないのだったら少なくとも各家庭で、この夏はうちは何かあったらどこへと逃げるんだよ、避難所をなるべく避けて、どの親戚のところに行くんだ、あのおじさんところに行くんだというのを各家庭で話をしてもらって、そちらへも連絡して我が家の避難体制をつくる、それを目標に、そういうことをぜひこの9月にはやりましょうということを、今から改めて呼びかけるべきだと思うんだけど、その辺はいかがでしょう。

○議長（一条義浩 議員） 総務部長。

◎総務部長（川島健悟 君） ただいま議員のおっしゃることは、非常に重要だと考えております。やはりこの自助の部分で各家庭が今回の新型コロナウイルス感染拡大の最中にどうやって対応していただけるかということはどうやって市から周知、啓発をしていくかというところが非常に重要だと思います。その中で、市長答弁の最後にありましたように、ユーチューブ等で分かりやすく、その中でも避難所の開設のことだけではなく、やはり最初に議員がおっしゃったように、親戚・友人宅への避難、そういった分散的な考え方の重要性についても示しながら、現状、地域の自主防災会等を通しての研修、それから住民の皆さんへの周知というのがなかなか難しいですけれども、そういった形で市民の皆さんに啓発を進めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（一条義浩 議員） 18番小池議員。

◆18番（小池智明 議員） 今回の9月はなかなか訓練をやりにくいから家庭でそういうことをやりましょうと、ある意味いいチャンスだと思うんです。ぜひ、動画を使うのもいいですし、いろんなやり方でそれを呼びかけて促進すべきだと思います。検討してください。

最後、研修自体が人を集めてやるということがなかなかできない中では、最後の動画の話なんですけれども、もう準備しているよと、「ふじ広報室」をスマホからもユーチューブにつなげば見られるようにつくるといことです。これはちょっと確認だけでも、「ふじ広報室」を見てみると、本当に職員の皆さんなりが出演者になっていろいろやったり、現場へ行ってそれを録画してきてやったりするのもあれば、今回の手引きを画面でずっと映してあって読みながら解説しているタイプの2つがあるんだけれども、今回はどういうタイプですか。職員の皆さんが、実際に受付はこういうふうにする、レイアウトはこうやるということを出演者として出てやりませんか。どっちですか。

○議長（一条義浩 議員） 総務部長。

◎総務部長（川島健悟 君） 今回、7月15日に発信を考えておりますけれども、市の職員が避難者役をやったり、受付役をやったりと、そういったスタイルでの動画になっています。

○議長（一条義浩 議員） 18番小池議員。

◆18番（小池智明 議員） 分かりました。それならまずよかったと思います。手引きの模式図だけだと、やっぱりなかなかイメージが伝わりませんので、実際に受付をつくったり、あるいは体育館を借りて、そこでこんなふう配置するんだという動きをやった中で、それを映像で撮るようなものをしていただきたいんだけれども、2段階で考えてみたらどうかと思うんです。今回はとにかく早く知らせるといのがあるので、職員の皆さんが考えてつくって流すのを第1段階としたら、第2段階は市民の皆さんにも協力してもらって、市民目線でこうしたほうが分かりやすいよとか、あるいは市民の皆さんも手引きを理解するワークショップなんかをやりながら、その皆さんが参画して動画

をつくる、あるいは動画にも出演してもらう。それによって、この手引きの浸透だとか、分散避難の考え方というのがより深く広まっていくんじゃないかと思うんだけど、そんな２段階的な動画のつくり方、それとアップというのが考えられませんか。

○議長（一条義浩 議員） 総務部長。

◎総務部長（川島健悟 君） 今後、新たにまた動画を作成する機会がありましたら、議員御提案のように、市民団体の方が加わっていただくやり方、どういうやり方がいいのか、これから手法についてはいろいろ研究したいと考えております。

以上です。

○議長（一条義浩 議員） 18番小池議員。

◆18番（小池智明 議員） 機会がありましたらじゃなくて、ぜひそういう機会をつくっていただきたいと思います。要望して終わります。